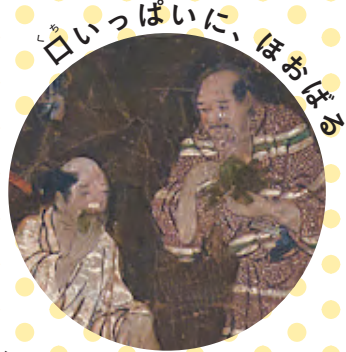


番外編
物、ものを呼ぶ

たくさんの人たちが集まった!



No.35
祇園祭礼図屏風
狩野派
桃山時代



No.36
江戸名所図屏風
江戸時代



No.37
四季日待図巻
英一蝶
江戸時代

これらの作品の中には、表情ゆたかな人々がたくさん描かれています。
今も昔も、たのしい時や、うれしい時は、みんな笑顔になりますね。
ぜひ、展示室でさがしてみてください。



発行：出光美術館
発行日：2024年9月7日
デザイン：大向デザイン事務所



おいで、おいで

出光美術館の軌跡 ここから、さきへ IV



物、ものを呼ぶ

— 伴大納言絵巻から
若冲へ —



2024.9.7(土) — 10.20(日)

鑑賞ガイド



- ① 伴大納言絵巻
- ② 江戸名所図屏風
- ③ 十二ヵ月花鳥図貼付屏風
酒井抱一
- ④ 絵因果經
- ⑤ 十二ヵ月離合山水図屏風
池大雅
- ⑥ 梅花書屋図 田能村竹田
- ⑦ 四季日待図巻 英一蝶

「物、ものを呼ぶ」とは...

板谷波山 1872-1963

「別れ別れになっている作品
どうしても、ひとつに愛情を
注いでいけば、残りはおの
ずと集まってくる...」出光
佐三へ、当時交流の深かった
板谷波山から語られた言葉
です。



陶芸家
20世紀の

出光佐三 1885-1981

出光佐三のコレクションは、
仙屋筆「指月布袋画賛」を
こよなく愛する気持ちから
はじまりました。1966年の
美術館開館以降は、所蔵
作品のジャンルもひろがり、
日本美術の歴史を見通せる
ほどになりました。

作品どうしが響き合うように

「物、ものを呼ぶ」ことで、

出光美術館のコレクションはつくられてきました。



出光美術館・初代館長

物、ものを呼ぶ 01

ひとつの物を大切にしていたら、
もうひとつを呼んだ!

No.6 十二ヵ月花鳥図貼付屏風(左隻) 酒井抱一 江戸時代



12月 11月 10月 9月 8月 7月



No.7 十二ヵ月花鳥図(うち7月~12月) 酒井抱一 江戸時代

1年のうちの同じ月を描いていますが、
描かれているものや視点のちがいに注目!



出光コレクションには、江戸時代の画家・酒井抱一が
描いた「十二ヵ月花鳥図」が2つあります。さきに屏風
(No.6)を所蔵していました。そして、近年になって図様
がそっくりな掛軸(No.7)が加わりました。No.7の作品
は、もともと屏風だったものが、今日に至るまでのあい
だに、掛軸の形につくり変えられたかもしれません。

物、ものを呼ぶ 02

人を大切にする心が
呼び寄せた

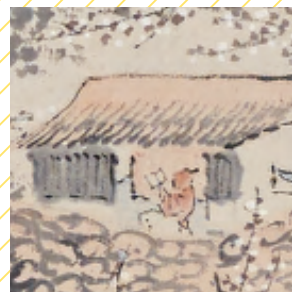
人を大切にする心を持ちつづけた出光佐三。その思いは
出光コレクションの始まりから大事にされ、人々への優しい
まなざしが感じられる日本の文人画がたくさん集まりました。



No.11 山水図屏風
与謝蕪村 宝暦13年(1763)



No.12 十二ヵ月離合山水図屏風
池大雅 明和6年(1769)頃



No.13 梅花書屋図
田能村竹田 天保3年(1832)



No.15 籠煙惹滋図
浦上玉堂 江戸時代

文人画に描かれた人物を
他にも探してみよう!



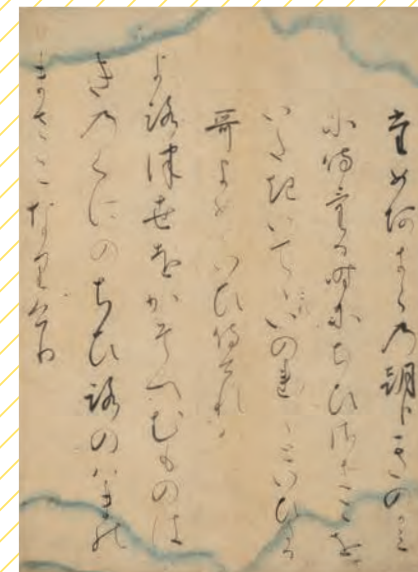
もともと「文人」とは、高い知識を備えた中国の役人を
しめす言葉で、彼らが描いた絵を文人画といいました。

物、ものを呼ぶ 03

物への愛情が詰まった
「物、もの」作品

古筆手鑑「見努世友」(No.25)

昔の人が書いたすぐれた文字(古筆)を大切に集め、貼り
合わせた作品。タイトルの「見努世友」は、「時をこえて、
今は会えない昔の人を友とする」という意味です。つま
り、ひとつひとつの物への愛情にあふれた「物、ものを
呼ぶ」アルバムです。



筑後切
伏見天皇
鎌倉時代
(展示期間 9/7-29)

右上の札は、アルバムを作った人がつけた名札です。
名札に書かれた名前は、書いた人や文章の内容などから
決められています。「伏見院」とは伏見天皇のことをしめ
しています。

あなたのコレクションをつくるなら、
集めたいものはありますか?

